

# 日台關係史

110781065 大場亮輔

# 第1章 日本統治時代

## 1節 台湾の基礎知識

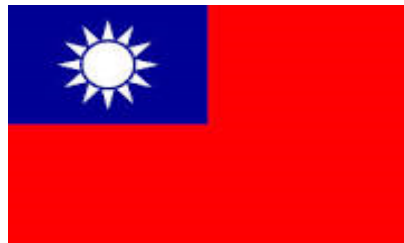
国土面積 3 6 0 0 0 km<sup>2</sup>

最高地点は玉山 3 9 9 7 m

公用語 中国語（北京官話）

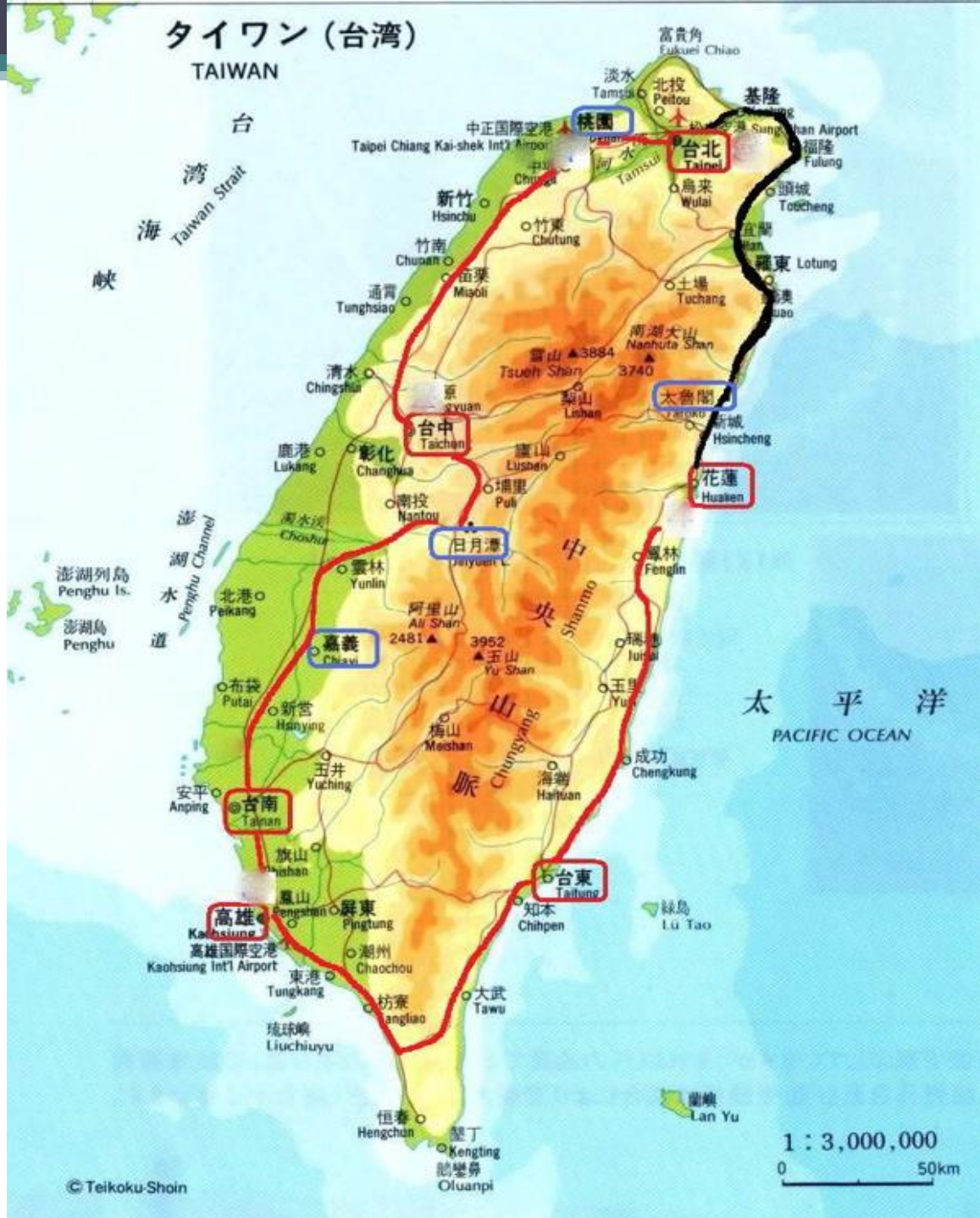
人口 2 3 0 6 万人

国旗



# 台湾 (台湾)

TAIWAN



「台湾全図」帝国書院  
「<http://search.fooooo.com/img/?q=%E5%8F%B0%E6%B9%BE%E3%80%80%E5%9C%B0%E5%9B%B3&fr=defau&span=&language=>」

## 台湾の由来

- a) 台南付近に居住していた先住民のシラヤ族が客人を「タイアン」「ターヤン」と称し「台湾」
- b) 漢族系の移住民は、「台員」「大湾」など
- c) 日本人は、「大宛」など
- d) 台湾と慣用、明王朝(1573-1620)

## 2節 日清戦争以前の台湾

### (ア) 清軍の台湾占領

(i) オランダ連合東インド会社に領有権

(ii) 鄭氏政権との対立戦

### (イ) 1681年10月

清王朝中国内部敵対勢力鎮圧

(i) 対台湾作戦に起用 「施琅」

(a) 蛇の道は蛇

(b) 台湾の攻略に勲功

(ii) 1683年7月8日

300の戦艦と2万の兵隊で澎湖島

(a)一週間の攻防の末占領

(b)捕虜を台湾に送還し、流言飛語  
放って民心を攪乱

(c)鄭氏政権はパニック状態で降伏

(iii) 1683年7月31日

- (a) 鄭氏政権の無条件降伏を澎湖島に派遣
- (b) 9月5日満州王朝への服属を示す辮髪
- (c) 政権の印璽を取り上げ
- (d) 政権の財産目録を提出

(ウ) 1683年9月22日

(i) 施琅は軍勢を率いて台湾を無血占領

(ii) 移住民は歓喜して歓迎 ← 鄭氏政権不満

(iii) 3年間の納税免除を布告

(エ) 23年間の鄭氏政権が終止



鄭成功



### 3節 日本統治のはじまり

(ア) 日本の台湾統治は  
台湾人の武力抵抗による鎮圧から開始



樺山資紀



桂 太郎



乃木希典

(イ)三代総督は、「土匪」「匪人」  
と称すゲリラ戦

(i)先住民の抵抗も頻発

(ii)台湾全島各地でゲリラ活動が活発

(ウ)「土匪」の鎮圧に加え言語の問題

(i)通訳に中国語のできる台湾人を採用

(ii)「通訳政治」は極めて非能率的

(エ)日本政府は樟脳に注目

クスノキ栽培、当時の防腐剤を作成

(i)19世紀、工業原料として

台湾の独占となり世界から注目

(ii)地位向上

## (才)1930年、霧社事件

(i) 日本人134人殺害

→台湾先住民300人の襲撃

(ii) 日本の領土になって35年

→順調であった矢先

(iii) 戦闘は40日で終了

→山奥に立てこもった為

## 4 節 1945年日本の台湾統治の終結

(ア)

日本の敗戦は台湾人の運命を大きく転換

(i) 「台湾の中国への変換」

(ii) 50年に及ぶ植民地支配から開放

(iii) 中国との近代化の格差

(イ)台湾人に決定権なし

(i)「昨日の敵」が  
「明日の祖国」に複雑な思い

(ii)台湾独立の機会

## 第2章国民党統治下の台湾

### 1 節 国民党による台湾支配のはじまり

#### (ア)国民党政権台湾移転

(i) 1947年4月22日

陳儀行政長官を免職

(ii)長官公署を撤廃

「台湾省政府」を設置

(iii)魏道明に任命 5月16日

(イ)魏道明台湾人を懐柔

(i)台湾省政府委員の14名中7名を台湾人

(ii)台湾人高官の下で

部下の外省人が実権を掌握

(ウ)中国の内戦は国民党の形勢不利

台湾の移転に向けて準備を開始



(工)

蔣経国 中国国民党台湾省委員会主任委員  
に就任

(i)陸軍の精鋭部隊である

戦車兵師団も台湾に移動

(ii)陳誠主席は翌1949年1月に

警備総司令官を兼任

(iii) 2月に各地の港を封鎖

(才)1949年 5月1日

一斉に戸籍調査を実施

(i)20日には戒厳令を施行

(ii) 1987年7月15日に解除  
40年に迫る長い戒厳令

(カ)国民党政権は台湾移転の声明

(1949年12月7日)

(i) 中華民国こそ「唯一の中国」

(ii) 国民党政権こそ「中国の政党政府」

(iii)

「二つの中国」または

「一つの中国、一つ台湾」が問題の原点

## 2節 戒厳令と一党独裁

戒厳令1949年5月20日

国民の権利を保障した法律の一部効力停止、全て軍隊の権力下に移行

一党独裁

一つの政党によって実質的に政権支配

(a)国民党は疑似「レーニン式の政党」

(ア)一党独裁「以党治国」の体制調整

(i)国民党は諸派閥の連合体

→台湾移転に党の再編成

(イ)蔣経国の一元的な支配の構築

→「以党治国」を実現

## (b) 1949年5月20日の戒厳令施行

(ア) 国民政権は集会と結社の自由を制限  
→ 新たな政党の結成を禁止 「党禁」

(イ) 国民党と共に台湾へ移転  
→ 「中国青年党」 「中国民主社会党」

(i) 国民党の一党独裁を緩和

(ii) 「便所に飾る花」

便所 = 一党独裁

(c) 1949年8月5日 「中央改造委員会」

(i) 「改造」 蔣介石の直系党の掌握  
→ 実質的な党の改組

(ii) 台湾移転で党員の復帰が目的

(d)1952年10月

国民党は中央改造委員会

の任務完了を宣言

→従来の中常任委員会回復

(i)蔣介石は「造神運動」を進め

銅像建立



## (e) 蔣介石と蔣経国の

父子は権力掌握に努める  
→ 後継体制づくり

## (ア) 絶対的な権力を集中

(i) ほぼ党首の意向に沿って政策を決定

→ 共産党の「民主集中制」と同類

(ii) 国民党も類似「党中央」設置

→ 「地方東部」行政機関を指導

## 第3節 奇跡の経済発展

(a) 国民党政権、一党独裁強権政治構築

(ア) 経済の再建と復興を最優先

(i) 開発独裁

(ii) 経済の再建と復興

(イ) 台湾の「開発独裁」

(i) 「台湾経験」開発途上国の範

## (b) 国民党政権に接収

(ア) 当時の台湾は、行政長官公著の人  
為的な失政

(i) 中国、国共内戦戦争の影響

(ii) 経済的な混乱=危機的な状況

(イ) インフレの度合いが激化

(i) 1945年から50年,

約5年間に物価の上昇は1万倍

に到達

(c)市民生活は窮乏

(d)加速度的なインフレの結果

(i)日々刻々と進むインフレ

(ii)経済活動を混乱

(iii)市民生活を容赦なく圧迫

(e) 国民党政権の官吏や軍人、その一部の家族ら約150万人が台湾に移住

(i) 消費人口は一気に増加

(ii) 台湾の経済、窮地

(d) 中国共産党関係者の潜入を制限

(i) 警備総司令部は1949年2月から港や河口を封鎖、海岸線も管制下

(ii) 許可された者以外の

台湾入境を制限

( f )1949年6月15日、中国と台湾の  
関係を断絶

(i) 従来の4万台湾元を1新台湾元  
デノミネーションを断行

(ii)手荒な幣制改革は、  
台湾人に苛酷な犠牲

(g)翌1950年6月に朝鮮戦争が勃発

(i)ハリー・S・トルーマン米大統領

「台湾海峡中立化」宣言

(ii)台湾と中国の関係は完全に分離

(h)1948年4月、台湾の土地改革

「三七五減租」を断行

# 第3章

## 日台関係再構築への模索

### 第1節 日中貿易再開と日台断交危機

(a)1950年9月の日台通商協定の締結

(i)日台関係が制度化



(b)1952年、日華平和条約締結

(i)戦前以来の日本と台湾の  
経済関係改めて制度化

(c)岸信介首相1960年1月に日米安全保  
障条約改定を成し遂げた後に退陣

(i)日台関係史上初めて  
現職首相として台湾を訪問

(d)1960年7月19日、池田勇人政権成立

(i)政経分離の建前で

中国との経済貿易関係を進行

(ii)台湾の中華民国政府に対し

友好関係を維持するとの姿勢

(iii)長期的な観点日本にとって

有益との認識

(e)1962年11月

「日中総合貿易に関する覚書」が調印

(i)63年7月4日、倉敷レーヨンが正式  
に中国との輸出契約を調印

(ii)日本輸出入銀行の融資を条件

## 第2節

### 1970年代初期の台湾の対外政策

#### (a) 「周四原則」

1970年代から80年代前半台湾経済  
に対する日本企業の見方

(i) 長期的には低落

(ii) 中国は、台湾などとの経済交流の  
ある企業を取引相手にしない

(iii) 日本企業に対する圧力

(b)1972年6月、台湾では  
蔣経国が行政院長に就任

- (i)人事面においては  
台湾出身者の起用を拡大
- (ii)行政効率の向上など政治革新

(c) 蔣経国、就任した直後の外交政策

(i) 現在外交関係を有している

51カ国との関係を維持

(ii) すでに国交を断絶した国家に対し  
より一層連係を強化

(iii) 断交後の実質関係維持の

方針が表明

## 第3節 外交関係なき外交交渉

(a)1972年5月15日、沖縄返還

佐藤栄作首相は1972年6月に退陣

(i)1972年7月5日、田中角栄首相

(ii)大平正芳が外相に就任

(iii)新内閣は中国との国交樹立へ

(b)1973年から74年の

## 日台航空路線問題

(i)日中航空協定の締結交渉に絡み、  
日台航空路が表立って問題化

(ii)中国→羽田空港、  
台湾→成田空港によって解決



## 第4章

### 日台関係安定化と変化への胎動

#### 第1節 日台関係の相対的安定

(a) 1980年代、中曽根康弘政権

(i) 総主流派体制が形成

(ii) 5 5 年体制下で国内政治が

最も安定

## (b)1990年代後半日台関係

(i)日本の外交政策変化が段階的に検証

(ii)日台関係は常に密接

(iii)双方とも公的な接触があり制約

## 第2節 小泉外交と日台関係

(a)2001年4月

日本の第87代内閣総理大臣に就任

- (i)90%前後の支持率を獲得
- (ii)主要人事や構造改革の推進
- (iii)独特のスタイルを堅持

## (a)72年体制

(i)日台問題に対する一貫した態度

(ii)兩岸問題、双方が対話を通じて  
平和的に紛争を解決

## (b)戦略的曖昧、戦略的明確

(i)小泉外交、国際環境や地域環境の  
変化を十分に利用

(ii)地域安全保障問題に対して主導  
的かつ積極的

## (c)台湾から旅行客に対する恒久的査証 免除が2005年に実現

### (i)台湾から日本への旅行者数

2005年100万人→2013年、235万人

### (ii)2004年の日本から台湾への旅行者 数、88万人→2013年、142万人

中華民国交通部観光局 訪台統計人数

「[http://www.go-taiwan.net/phocadownload/2014\\_statistics\\_by\\_month.pdf](http://www.go-taiwan.net/phocadownload/2014_statistics_by_month.pdf)」

観光統計累計月報表 近十年來臺主要客源國旅客成長趨勢

「<http://admin.taiwan.net.tw/public/public.aspx?no=315>」

## 第3節 陳水扁と日台関係

(a)2000年5月20日

中華民国第10代総統に就任

(i)人的往来は以前に比べて疎遠感

(ii) 「親日総統」李登輝に比べ

陳水扁の日本への関心は低い

# 第5章 今後の展望

## 第1節 日本の中の台湾理解

### (ア)日本の学校教育

- (i)台湾の歴史戦前の日本と台湾の関係
- (ii)日清戦争後の日本による台湾の占領
- (iii)日本の統治、程度

### (イ)両国関係の親密

- (i)無視する形

## 第2節

### 台湾新幹線を通じた日台関係

(ア)台北と高雄間、  
340キロを約90分、  
最高時速300キロ、  
座席定数は900人以上、  
列車の長さは300メートルが条件  
(i)日本の最新技術により成功



(イ)台湾新幹線は2016年に台北駅の東側に約6キロ延伸して新駅を建設

(i)2003年の品川駅開業

(ii)一晩でシステムを切り替え成功

→台湾で技術を使用予定

## 第3節 日台関係の将来

(ア)親日の若年層が日台の接着剤

(i)新しい日台間の礎

(ii)両国の将来にとって前向

(iii)台湾との友好的な関係が樹立

(イ)良好関係を維持